



秀乃葉心

79
585
6



門 7 9
荒 585
巻 6



香道秋農光中

中古組香十品

○花軍香

志野宗信組之

香三種

一種梅と名付五包

一種櫻と名付五包

右之内一包片試し

一種山嵐と名付一包

右の試し客香也

香道秋の光

右試録々々物香九包なりおまを焼出せし
 先始一一包に合し名付焼一煙びきまを
 記録し残八包ハ二煙びきまを記録し
 盤上の人形をほふ点ハ油とて同終
 くべー一人の点ハ二点二人より一点
 づの一人の星二つ二人より星一つハ
 一人の点ハ二点二人より点二つハ
 ハ星一つなり記録しは梅方梅方と立

梅方乃点星何程梅方ハ点星
 何程と都合引合何程くの勝と書
 付ら但双方乃点星同程乃何ハ
 下風の点多き方を勝とん
 右れお々々にて盤立物なりハ
 花軍香と名付合あり
 盤ハ堅溝五筋横乃界十五間梅方
 大将玄宗梅方大将貴妃かり官女

人形ハツ

人形香一炷 燵が一廻進と燵さう
 人の人形の其俣をかり
 姑も花合の付と下向を燵ま二回
 進む一人燵の三回進む
 次より二炷びきと下向一人燵の
 三回二人よりの二回進む
 相も二炷あがり燵一方一炷も燵さう

河の持くる花を取おろし人形の腰
 へさき
 次より燵の燵さう花を取入るとは
 二炷の四一炷燵まは花のくさき一
 回進むとさうまかり
 梅桜の香も一人燵あはれは二回進む
 二人よりの一回は進む
 下向の燵まると又次一炷の燵り有

了相手一燈も満らざるればおける花
を返あそく一回退く

山と風の満らまに今一燈満らざるま
おそ梅梅の中一燈満れば花は
ながく一回退くあり

山と風四方中一方の今一燈乃梅
梅をすおおの山と風づらうとく一
燈のすさる所の二る進む一方二燈

がくす方三間とび
記録の点の右よりけ星のたよ付あり
此香の宗信より参兩斎へ付くれ
香たうとらや

花軍香之記 香組

梅 香風
松 香風
山と風 紫雲

梅 山と風 梅 梅 梅 梅 梅

梅方 点十二膳

早梅名系 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

綠松 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

青竹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

梅方 星四頁

紅葉 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

白菊 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

玉桂 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 皆

年号月日

古今香

香二種也

一種を鶯うすと名付五包
一種を蛙かと名付五包

右の内一包は試す物と

又香一種

歌うたと名付二包

古の試なり

以上十包出香なり歌は香二種初なり

香道決り

三

二包結び合をあはとささくかと八ち煙えんとあと
 管くだ二つ結び合を蛙かと蛙かと結び合をあと
 と蛙かと結び合を蛙かとあと結び合をあと
 多そのち其ち後ち打ちもぞくく焼やき山やまとぶ一いち二に煙えんじじ
 ちちめめくくれれおおべべ一いちれれ乃のおお中ちゆうのの
 歌うたと歌うたののれれおおへへ一いち
 管くだと管くだののれれおおへへ一いち
 蛙かと蛙かののれれおおへへ一いち

先まづ蛙か後のち管くだののれれおおへへ一いち
 先まづ管くだ後のち蛙かののれれおおへへ一いち
 右みぎ寄よれれ香かのの客きやくとく二に点てんなりなり記き録ろくのの高たか
 子こづづりりをを志しるる事こと
 れれのの一いち人にん前まへ五ご枚まい管くだ蛙か水みづ花はな歌うた此こゝ
 字じ紙し書しよぶぶ一いちれれ乃の表ひら古こ今いま集しゆれれ中ちゆう乃の
 歌うた人にんれれ乃のをを書しよぶぶ一いち
 在あつ泉すい業ごう平へい 在い勢せ大だい浦ぼ 凡おほ河か内ちゆう行ぎやう恒こゝろ

香道決り

三

在来方ありつゝのり

藤原敏行ふじのらのとくゆき

柿本人丸かきのまりのゆき

僧正通昭そうじょうとんしょう

小野小町おのこまち

此類このるいかり

異ゆ脱で之の秋あきの香かハ二色にいろハ香か以も一ひと種しゆは
包つつじ試しならぬ香か二色にいろ出でるハ是こゝ以も秋あき乃なり
香かと名な得とく札しやくを打うべしとももり

古今香之記 香組

香 梅香
蛙 胡震
秋 白菊

人丸	秋	学	三
大補	花	秋	学
元方	花	秋	学
		蛙	六
		蛙	六
		蛙	六

○呉越香

香か四よ種しゆ也 一ひと包 二ふた包 三さん包 四よん包

右みぎ向むかひ一ひと包ひとかひ試しよし也

客 一包紙を

右紙と煙紙を十包打きを焚出其一
 煙しりさなり連中呉方越方と双方の
 色争べしや客と主人乃人形を一間つ
 進め客と主人の馬よりゆくと次し
 煙客分の馬よのどと一其所の紙を
 又神よすみ方と後よ客と主人は
 馬よりゆると多少よくゆと客の香

客と主人の二間と一馬よりゆると客
 又紙の馬よのどと一間すし人形退
 く客の馬と大将の周旋を打大将
 又合捕場よりゆると方紙勝と負
 客と主人の何と下馬して結ぶる方
 旗を後とゆると道具と接と後と
 又紙より後の香紙とゆると盤の結
 客と主人の盤と五の盤と目十間

かり五間目のるふ分捕場えんごり度くさく
 ろりとのむ穴あなをわく分捕場えんごり一ツ
 前後せんごより五つ片みと十一穴あななり圍づり
 委くし記録きろくありつり点をえんをくべし

吳越香之記 香組

一 夏ふ
 二 梅風
 三 村雨
 客 蔭雲

一 二 三 二 二 一 一 一 二 二

吳方廿一点

若松なま 一 二 三 二 二 一 一 一 二 二 皆

緑竹りよく 一 二 三 三 一 一 二 一 三 二 六

系楊けいよう 二 三 二 三 三 一 二 一 一 一 二

越方十一点負了

白梅はくばい 一 二 三 二 一 一 三 一 二 二 四

紅糸こうし 二 一 三 一 一 三 二 三 三 一

玉桂ぎよく 一 一 二 二 一 一 一 一 一 三 四

香道決り

年号月日

右人形装束ハ呉越別の色ヨリウグー
た右いづれを呉方いづれと越方といふ
定法ハ一何ノ由ニ決ス

○三夕香

香三種也

栴豆ハ名付 二包

鴨立次ハ名付 二包

右ノ内一包は試しむ

浦の昔屋 一包

右試かり客かり

右試かり残り三包打手也焚物と云

記録ありとハ一点客ハ二点と云

但し一粒より吹と云はわり
張りの徳と云はまらふと

三夕香之記 香紐

栴豆ハ 西京

鴨立次 子の目

浦昔屋 ちりこ

鴨立込	浦苔屋	栴立込
鴨立込	浦苔屋	栴立込
浦苔屋	鴨立込	栴立込
鴨立込	栴立込	浦苔屋

右の香の二種かぐりて包紙をい
らま記録とてこれ一各糸紙を用て
包べし三夕れ和香を以て紐一香也中

昔、多く志願するに今、安んじ記す名
系紙の奉書乃紙四つ切又四つたも
中込とす付うよの名系紙書とて下皆
此種に准ぶべし

○蹴鞠香

香中種也 一四包 二四包 三四包
右の内各一包つて試し物と
客一包試なり

大試終りて出香十包いづきもおまを焚
出と三炬しきりて三度いづづ
残一炬の香盡くや名付く一炬しき
なり一炬すぬる度よ人形一間はく
進む客の多少のうすかなく二房すじ
記録と二鳥也若終りの香盡く母客
出くすぬるも一間とふ鳥と一点
すぬる相も三炬すてり四一炬とぬる

ざらぬ鳥帽子をぬぐもぐ一此人かたねく
高のともさゆをおも鳥帽子をさるる事
か一十炬終りて緒さる方乃ねくも
柳もも鞠おの枝は鞠とかる也人形の
袖より双方へ五人はけり終たぐもぐ
一人取らぐり習いあり
人形十人之家の金の鳥帽子地下の黒
乃鳥帽子は師の燕尾又の頭巾もぐ

香道決り

一奥方りや人形扇をおもすた乃脇了
 拵を笛さうやうさうしりか拵をやまごい
 けりとりよとのうたぬたの方へうまけて拵
 又たのりたも拵へ
 記録へ一を席と記し二と破と記し
 之を急と記し客ハウと書ぐ一是ウハ
 室と子おろり之度よしくく交す一記
 録とぶ

蹴鞠香之記 香紙

一 記す
 二 ぬす
 三 庭の洞
 四 袖寄

三二二一客三一一三二一

白菊 急破破席ウ急席急破直皆十

紅糸 破 席ウ急 急 直皆六

菱草急 破席 急席急破 七

松葉急破破席ウ席席急 八

年号月日

六盤の圖は委し四卒乃樹さし木おひ
あり中に袖より棍の木の鞠を付さし
五くし

異説一人歌八人よせし又四人よせし
中よりよき同一例なり連中一人形
しりぬ二人片づらき人歌八のたうり
一つよき人つて八人し多すべし十人
の河川人歌十也あし又治氏蹴鞠

香あり丸相傳せし遠いあり今案は略
ゆり連中貴人の軒下軒向くふり

○鶯香

松と名付 四包 竹と名付 四包
梅と名付 四包

香四種也

右一色片試し物と
常と名付 一包

右客かり試たり

木の香姑より嘗れ香りの希しく試す
 出香の匂もく嘗の香あまを残りをも
 笑べく丸一匂のきかり嘗の香は
 固当れいさ残りきりにく残りきり
 と匂もく残り六包の中へ嘗とまを
 中幸かり記録の固りきりきり
 とれそきへく嘗姑より入り
 出まの真かりゆよと匂もて後入り也

黄鸞香之記 香記

ね ちんき
 竹 柳花
 梅 子松
 号 玉琴

竹松梅竹松号
 松梅竹号
 松梅竹号
 松梅竹号
 松梅竹号

大嘗の香より口号候わり初より嘗れ香と

香道新法

入るをくつかりぬりて常とてまゝのりを
 かまひりてせど記録よ一番のゆり常と
 初なるく書十番のゆりを精と書十と
 笑し人を音花と記し松竹梅
 常とて笑し人を花常と記と常とて
 を笑して外の香園より花と記と
 常はゆりぬ人よりの常の常とて
 此異はわやゆりぬりぬりぬりぬり

常香のゆりの初の後よりまゝのりを
 星とす人まゝ

○六儀香

- 一 四包
- 二 四包
- 三 四包

香四種也

右一四一包は試し物と
 常 三包 試し物

右試三包は焚終り残り物香十二包を
 二包は結い合を至らぬと成り也結い

合を包むる

一と一と 二と二と 客と客と

一と二と 一の上包は初と末付
二の上包は後と末付

客と二と 客の上包は初と末付
二の上包は後と末付

二と二と 二の上包は初と末付
二の上包は後と末付

ちと通す結い合を佛の勢く後又おまをい
づまよりぬも焚出とぶく二燈しつき二燈
わくこれ筒をぬりてれをいれた記録

とぶくれの折なり

一と一と 短奇のれおへ

二と二と 長歌のれおへ

客と客と 混本歌のれおへ

初一後二の折なりれおへ

初二後三の誂借奇のれおへ

初客後二の旋頭奇のれおへ

記録の首づりを記とむ一字は頭字

新編和歌集

ぐくろと書く一立物盤の圖よ委し松五卒
 榊（まがき）五卒玉津鴻鳥井（ついで）瑞籬（みづがき）位吉（いよし）鳥井
 瑞籬（みづがき）位吉（いよし）方（かた）の松玉（まつたま）は島方（しまかた）の榊（まがき）と竹（たけ）の
 色（いろ）はかり二燈（にとう）つ結（むす）ひ合（あ）を二燈（にとう）長
 岡（おか）を正當（しやうたう）と云（い）つり安（やす）一岡（おか）ざりの半（はん）
 當（たう）と云（い）正當（しやうたう）の松（まつ）と云（い）榊（まがき）と云（い）一岡（おか）
 つり半（はん）當（たう）の神（かみ）と云（い）記録（きらく）よの位吉（いよし）方（かた）
 の神（かみ）の香（か）當（たう）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の

香（か）當（たう）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の
 をつり安（やす）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の
 玉津（たまづ）鴻（ついで）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の
 下（した）の松（まつ）一枚（まい）げ（げ）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の
 四燈（しとう）當（たう）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の
 瑞籬（みづがき）乃（なり）隙（ひま）ま（ま）ぐ（ぐ）約（やく）五燈（ごとう）當（たう）と云（い）つり安（やす）と云（い）記録（きらく）後の

香道和の史中

十七

玉籬の内へ入る程を初め時とす六種
 ありたは六儀より叶といふなり一人坐の間
 行後の香井をおきの後の時とす
 くは時をいれ方れは表乃たれ方ぬ
 三々神本とん次乃時乃たれ方の神本
 とん

六々香昔の香六種を以て初時六儀
 一表一儀を二包片あて十二包

一徳二煙ひきまはく同し香なりと
 志師二品は清の宗信乃古記より
 傳ても中法よりたれおとく香四種
 を以て同神より今世は用かぬ
 かくれおとく也今又此書より種
 ありたは六儀のてはくやんと思ふ
 人の香六種より可同神の人の
 香六種より香教と減らるものり

香道新入共中

十一

六儀香之儀 香組

一 梅花
二 存松
三 星月夜
四 吐月

少 一 少 三 一 二
二 一 少 三 二 三

伯吉方十五頁

^{名素}白梅 旋 短 混 長 折 誂 皆

^同系楊 短 少 長 誂 三

^同紫友 少 混 一 二

^同早蕨 旋 一 混 三 折 誂 五

玉津島方十六

^同菱草 短 混 三 二 誂 四

^同綠松 旋 短 少 長 折 三 五

^同青竹 旋 一 混 二 誂 四

^同玉桂 短 少 折 三 三

年号月日

○星合香

香七種也

一 種 牽牛せんぎゅうと名付 二包

一 種 織女おりひめと名付 二包

右の内一包は、紙よ出と

五種を、星と名付 五包

右の試なり

右の試を七種香打を焚出とべし

名系紙をぬき、試るに香ハ星

中いづれも、せんぎゅう牽牛織女おりひめ乃

香ハ牽織せんぎゅうと一字、せんぎゅうげりくべし記

録も同一牽織乃二燈一燈を

高あけくざり紙あけ大兩と記、あけ紙をけり先

あきり後高あきくざりは、あき曉兩と名付

神め高あきくざり後あきりは、あき雲雨と名付

べし、みふあきり高あきくざりは、あき星合と

あきり

星合香之記 香組

牽 志松
織 弘摺

星 星 牽 星 織 星 星

名系 星 星 牽 星 織 星 星 合

名系 星 星 牽 星 織 星 星 兩

名系 星 牽 星 織 星 星 星 兩

○關雞香

左一 二 三 四 五 各二包

右一 二 三 四 五 各二包

香十種也

左一 包 右 試 出 也

右 試 終 後 殘 星 十 包 打 ち ぎ だ ち ち 別 て

関べー

左一 正四位上 名付 左二 正四位下 名付

左三 從四位上 名付 左四 從四位下 名付

左五 極薦と名付

右一 正五位上いさむねのしやうと名付 右二 正五位下いさむねのひげと名付
 右三 従五位上よむねのしやうと名付 右四 従五位下よむねのひげと名付
 右五 差次さしつぎ藏人くらんとと名付
 右立物のよひつぎ雜十羽よひつぎ 白五羽しろごう 黒五羽くろごう たり双方たうりふたうへの
 中なかにたり盤名所ばんなしょ香のかどくどく雜のやりり初はつめの
 儀ぎをを行ゆるる中なかにに勝しょう負ぶれれ場ばありり儀ぎの
 相あいのの雜ざををももああへへりり也なりおおいいおおりりなりなり一
 人ひとのの間ま二に人によりより一ひと間まづづとともも心こころ香か

終はつめははもも盤ばんのの儀ぎ負ぶ付け次つぎ身み終はつめりりたるなり
 相あいのの儀ぎわわらら双ふたう方ほうへへトともも是こゝでで一ひとれれのの表おもて
 のの儀ぎ常じやうれれとと裏うらのの儀ぎもも記しるすす位ゐ階かゐををくくべべ
 れれのの一ひと燈とうららももきたきたたたるるべべ一ひと記しる録ろくののありあり
 づづららをを記しるとと立たつつ物もの双ふたう方ほうももたたをを儀ぎ太たい
 をを儀ぎ太たいももありあり此こゝ香か組ぐみ十じゆ終はつめるる
 是こゝにに神かみのの儀ぎのの後のちにに結むすぶぶてて一ひと間まづづとともも心こころ香か

香道新ノ巻中

三十二

よく、續編、新編、香道、其、記、也

關雜香之記 香組

右	一	二	三	四	五
右	一	二	三	四	五
右	一	二	三	四	五
右	一	二	三	四	五
右	一	二	三	四	五

白雜方十九頁了

右 一 三 二 四 一 五 二 三 四 五 皆

法梅 右 一 二 右 三 右 四 右 一 二 右 三 右 四 右 五 右 四

白菴 右 三 右 二 右 一 右 三 右 五 右 五 右 五

黑雜方二十

綠松 右 一 右 三 右 四 右 五 右 三 右 五 右 六

影竹 右 三 右 三 右 四 右 五 右 二 右 四 右 七

梧桐 右 一 右 二 右 四 右 一 右 二 右 三 右 五 右 七

年号月日

香道新編

○燒合花月香

たきあわせのちんちん

一 種花と名付 二包

一 種月と名付 二包

香二種也

右の内一包づ試みあそ

右試終りく出香四包を一度は二燈つ
焚合を出さば二燈とも花と月の
れ二燈とも月と月のれ一燈の月
一燈のれと月のれをあげられ

表乃後書れづ一書は月記篇と書

一人分三枚十人分三十枚なるれ

折居し入墨香終るは記録とづ一香

焚合乃けは燒合十燈香ぬ月一取

秘する多し素くの師傳のきしと得

かく初る今實は素く記さむ

焚合花月香記

香組

花

素

月

秋風

香道秋農之中終

三十五

山吹日 红梅日 早梅名系

花 冠 月 日 日

月 鹿 花 花 花 花

年号月日

皆

香道秋農之中終

